

花と緑の銀行だより

201号 2016.9



タイトル：中央通り線の花飾り（入善町）

目次

- ・花と緑の提言〈「花と緑にあふれる入善町の実現を目指して」（入善支店）〉…… 2
- ・活動事例〈「市民協働による花のまちづくりの推進について」（富山支店）〉…… 3
- ・技術講座〈花壇づくりの妙技2〉…… 4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン²⁵〉…… 5
- ・写真コーナー〈平成28年度富山県花のまちづくりコンクール〉…… 6
- ・この人あり〈「20有余年継続している栃山花壇」（滑川支店）〉…… 7
- ・情報コーナー〈第44回花と緑の大会〉…… 7



花と緑にあふれる入善町の実現を目指して

花と緑の銀行 入善支店長
入善町長 **笹島 春人**

富山県東部に位置する入善町は、北アルプスから流れ出る急流、黒部川によって形成された、黒部川扇状地の中心に位置する、人口約26,000人の町です。



黒部川は、かつて黒部四十八ヵ瀬と云われた暴れ川で、たびたび氾濫を繰り返し、人々を苦しめた反面、この水を利用した流水客土と、圃場整備の実施により、現在では、県内有数の穀倉地帯となっております。また、全国名水百選に指定された黒部川湧水群を有しており、量も豊富で清らかな水が、町のいたるところで取水される、名水の町であります。

このような環境の特性を有している入善町は、緑のあふれる地域となっており、永年にわたり水田裏作として栽培され全国的な生産量を誇っている『チューリップ』を町花とし、また、かつて黒部川扇状地に広く分布し、現在も下山河岸段丘に群生している『こぶし』を町木に指定しております。



現在、花と緑の銀行入善支店には、10地方銀行74名の頭取やグリーンキーパーが緑化推進活動に取り組んでいます。

花と緑の銀行入善支店としましては、町内の公園、公民館、小中学校、地域道路花壇等の約90ヵ所にプラグ苗、春苗、秋苗、チューリップ球根や冬苗の配布を行っております。

また、花苗の配布時期にあわせて、各地方銀行では、花壇づくり教室、寄せ植え教室や山野草展示会の開催など独自の活動を展開しております。

その一例として、中央商店街のフラワーポットは、地方銀行とともに地域住民の皆様にも日頃の管理にご協力いただいております。通行者に花の彩りを楽しんでもいただいているところであります。

なお、フラワーポットは、設置から長らく年月が経過したため、約150基を平成27年度より計画的に更新を進めております。

さらに、平成28年3月には栢山地方銀行内の花壇造成工事が完成いたしました。来年度以降は、富山県花のまちづくりコンクール（一般の部）において上位入賞を目指してまいります。



今後とも、頭取、グリーンキーパー及び町民の皆様方には地域の緑化推進活動に一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、公益社団法人花と緑の銀行の今後益々のご発展と、皆様方のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

「市民協働による花のまちづくりの推進について」

花と緑の銀行富山支店 事務局長

富山市公園緑地課 課長 笹岡 寛

富山市では、より多くの市民の皆さんが、自宅や地域で、自主的な活動として花の飾り付け等に取り組んでいただくことは、単に、まちなかに花や緑を増やすだけではなく、市民の皆さんに、まちをきれいにしようとする意識、ふるさと富山に対し愛着や誇りを持っていただき、来街者へのおもてなしの意識が高まることにも繋がっていくこと等が期待できるため、大変、重要であると考えており、特に、市民の皆さんとの協働でまちなみを花で彩る取り組みを推進してきております。

とりわけ、まちなかで平成19年度から行っておりますフラワーハンギングバスケット事業は、富山のまちなかの魅力の一つとして定着してきており、県内外から訪れる方々からも高い評価をいただいております。その中の市民協働による「市民とひろげるフラワーハンギングバスケット事業」は、市民から募ったサポーターの皆さんに、バスケットの植え込み作業や、城址公園のお濠付近への設置作業、また、その後の花から摘みや水やり等の維持管理作業に取り組んでいただいております。



写真1 市民と広げるフラワーハンギングバスケット
植え付け風景

さらに、NPO花街道薬膳を夢みる会や、富山駅周辺開発協同組合、富山商工会議所、各地域の皆さん等により、黄花コスモスやフレンチマリーゴールドの種を植樹樹にまき、花であふれた道づくりに市内のたくさんの通りで取り組んでいただいております。



写真2 市民協働による植樹樹の飾花

各地域では、昭和57年に設置し、各小学校区を中心に活動されています「富山市緑を育てる推進員」などが中心となり活発に活動されており、これまでも市民の皆さんの緑化意識は高く、例年、「富山市花いっぱいコンクール」に、たくさんの応募をいただき、この花壇コンクールのモデル花壇である四方こども園が、今年度、みどりの愛護国土交通大臣表彰を受賞されました。



写真3 「富山市緑を育てる推進員」によるひまわり
プロジェクト作業風景

昨年度からは、市民協働で城東ふれあい公園にて栽培した、富山市の草花であるヒマワリをJR富山駅へ展示し、駅利用者の方々に楽しんでいただく「ヒマワリプロジェクト」、まちなかの公園で地域の方々が野菜を育て、収穫を分かち合うことで社会的な絆を醸成する「街区公園コミュニティガーデン事業」、富山造園業協同組合の方々と協働で、戦後、城址公園での植木市をルーツとする「花と緑のフェスティバル」、市民の方々や富山県菊花会の皆様と開催する「市民菊まつり」、大沢野地域のサルビア園花壇管理、八尾地域のおもてなしフラワー事業、婦中地域の街並みフラワーライン等、多くの場所において市民協働による花のまちづくりを進めています。

こうしたことから、市民の皆さんが地域で行う花壇づくりや花の飾りつけ等に対し、花苗や種子、球根の提供や技術的な助言・指導等を行う他、今後も、市民の皆さんと協働による、花と緑にあふれた潤いのあるまちづくりを、積極的に推進してまいります。

借景を活かした雄大な花壇づくり

花と緑の銀行 普及研修部

花壇づくりには周囲の景観との調和がとても大切です。また、単に、それぞれの地域環境に合わせるだけでなく、積極的に景観を取り込むことで、雄大な花壇や花の道を作ることができるのではないのでしょうか。

さらに、花壇づくりに携わった人だけでなく、たまたまその花を見に訪れた人も、花壇に周囲の景観を取り込んで、自分だけのプレミアムなビューポイントを見つけることも楽しみの一つだと思います。

もし、特別のビューポイントが見つかったときは、しっかりと写真に収めて、多くの人々に教えてあげて下さい。

1. 山を取り込む

借景と聞いて、1番に思い浮かべるのは梅檀山花と緑の推進協議会の花壇です。山あいのトンネルを抜けた左下に突然広々としたグラウンドが現れ、東前方に大きな花壇が目飛び込んできます。花壇だけでも大きいのに、加えて、後ろに広がる杉木立や遠くに広がる山並みが組み合わさったときの雄大さには、とても感動します。(写真1)。

見る場所によって、花壇の雰囲気が大きく変わります。是非、ゆっくり歩きながら、いろいろな角度から見渡してみて、自分だけのビューポイントを見つけて下さい。また、この花壇は時間とともに、そして、太陽の動きとともに、大きく変化する花壇ではないでしょうか。



写真1 杉木立や山並みを取り込んだ雄大な花壇！
(砺波市 H27梅檀山花と緑の推進協議会)

2. 花壇前面の素晴らしい景観を楽しむ！

ひみ四季彩会の白鳥花壇はその名にふさわしく、カラミンサやペチュニア、エリゲロンなど白い花を多く取り入れ、涼しげで爽やかな花壇が造られています。(写真2)。

さらに後ろのなだらかな山を取り込むことによって、奥行きが深さが加わります。



写真2 涼しげで雄大なひみ四季彩会 白鳥花壇
(氷見市 H27ひみ四季彩会)

さらに、この花壇の前面には広々とした十二町潟の湖面が広がっています。夏にはヒシが湖面いっぱいに広がり、冬には白鳥が舞い降りると言う、心を癒やす、絶品の憩いの場と言えます(写真3)。

後ろに緑豊かな山、前には十二町潟、そして、両者を繋ぐ白鳥花壇、この3者を一望できる、絶好のビューポイントを是非見つけてみて下さい。



写真3 湖面にヒシが広がる、夏の十二町潟

3. 出穂期の稲田を借景として！

富山県の花のまちづくりで特徴的なことは、花の道部門が充実していることではないでしょうか。

幅50cm程度の限られた空間を利用して、100mから500mまで、それぞれの地域に合った、個性的な花の道が造られています。

県の花のまちづくりコンクールの審査は7月中旬から8月上旬にかけて行われます。まさに、稲田が青々と茂り、7月下旬には穂が出てきます。

どこの花の道でも、使われている花の種類は大きく変わりませんが、どれをとっても個性的で似たものは殆どありません。

富山県の花のまちづくりの「学ぶけど、真似ない」という気風が最も現れているのが、花の道部門とされています。まさに、納得です(写真4、5、6)。

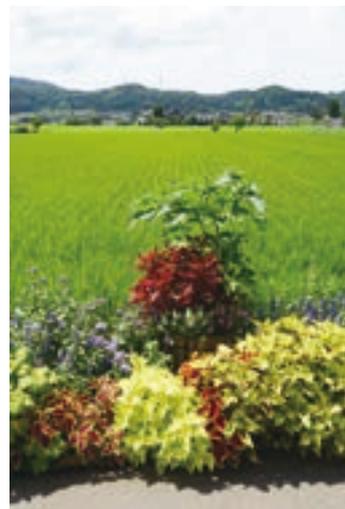


写真4 稲田を借景にした、雄大な花の道
(南砺市 H27桐木花と緑の活動推進協議会)



写真5 水田地帯に忽然と現れる
白、黄、赤、青4色の
ストライプ
(砺波市 H27五ヶみちグループ)



写真6 稲田を背景にした500mの
花の道
(砺波市 H27高波花と緑の推進協議会)

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン②

職藝学院

教授 渡邊 美保子

オミナエシ

オミナエシは秋の七草の一つです。現存する日本最古の歌集である『万葉集』にも詠まれているほど、日本人に長く親しまれてきた宿根草です。現在では、自生しているオミナエシを見ることが大変難しくなりました。富山では、レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。南砺市立野ヶ原にある桜ヶ池の堤防の斜面では、オミナエシの自生地を復活させる活動が行われているそうです。

オミナエシは、たくさんの小花が集まって、レモン色の傘を何本も開いたような姿で咲きます（写真1）。小花は3mm位で、よく見ないと、ただの黄色い粒の集まりのように見えます。つぼみは風船のようにぷくっとふくらみ、ぽんっと割れて5枚の花びらを開きます。初夏から初秋にかけて開花をひたすら繰り返します。そのため、開花期間はとても長く、7月から9月の終わり頃までです。花が開く音が聞こえたとしたら、オミナエシほどにぎやかな花はないでしょう。草丈は1m前後で、背丈が高くなるわりには倒れにくい丈夫な茎を持ちます。



写真1 オミナエシの花。花を付ける茎も黄色に色づく。9月中旬。

オミナエシは1本植えると次の年には、2本から3本の花茎を伸ばします。今年咲いた茎の根もとから次の年に咲く新芽が伸びてくるので、少しずつ地面を移動しながら次の命をつないでゆきます。オミナエシの茎に付いた葉は、鳥の羽を広げたような切

れ込みがあります。一方、親株の根もとから地面を這うように伸びてくる地下茎の先にできる葉は、毛の生えた小松葉のような形をしています。冬になると花茎はゆっくりと黄土色になり枯れてしましますが、地下茎の先から伸びた葉は枯れずに冬を越します。雑草によく似ていますので引き抜いてしまわないようにしましょう。これが、次の年に咲く子株になります。放射状に広がる子株の葉っぱをめくると、地下茎が地表面にむき出しになっています。そのため、日差しが強すぎて乾燥する場所や、水はけが悪い土では子株の数が増えないようです。植え付け前は、完熟の腐葉土や牛糞堆肥などをすきこみ、水はけの良い土作りをしましょう。

広い敷地を持って余している方は、イトススキとオミナエシの組み合わせをおすすめします。オミナエシの後ろに、草丈が1.5m位になるイトススキを植えると、オミナエシの草姿が際立ちます。まるで緑色の屏風の前にオミナエシの花が飾られているような姿になります（写真2）。オミナエシは西日や乾燥を嫌います。そのため、イトススキを南西側に植えて、その手前にオミナエシを植えましょう。オミナエシは、イトススキが強い日差しや風をさえぎってくれるので機嫌が良いようです。



写真2 手前からアオイロフジバカマ、オミナエシ、イトススキ。8月中旬

平成28年度富山県花のまちづくりコンクール

学校花壇部門 最優秀賞 富山市立四方小学校



【審査講評】

栽培管理、デザイン、活動、取組みの全てにおいて高い評価を得て、四方小学校が受賞しました。花の種類が多く、各種の花が色鮮やかに織りなす花壇マップが出来上がっていました。アメリカカフヨウやルドベキア等、草丈の高いもの、厚みのあるものなど生育状況も見事でした。5年生と委員会の子供達を中心になって、草むしりや水やりを協力し、ポカポカ温かい心でつながることを目指したということです。「こども見てください。」と案内してくれる子供達からは強い意気込みを感じました。

審査当日は、指導して頂いたグリーンキーパーさんも招かれていて、アイデアを出し合い、オブジェも作り、みんなで関わっているからこそ出来るプレゼンがありました。花壇の見所を歌や身体表現で発表し、子供たちは、自分たちで苦労して育てた花壇への愛情と満足感にあふれていました。地域の指導者の支援も頂きながら、学校花壇を教育活動の中に位置づけ、連続4回の最優秀賞受賞は快挙です。子供を前面に出しながら、先生方やグリーンキーパーさんの根気強いご指導が着実であることを感じ、花壇の花々が子供の心を温かく育てていることを確信しました。

(審査委員長 五十嵐俊子)

幼稚園・保育所花壇部門 最優秀賞 射水市 小杉西部保育園



【審査講評】

花壇の特徴はタイムリーな「オリンピック」をテーマに、園児たちに、今年はオリンピックがあるということを思い浮かべさせるような工夫が随所にこらされていることにありました。

具体的には、アプローチに朝顔のトンネルを配置し、そのトンネルをくぐり抜けて走って行くときイトウの花の高さを生かした聖火台にたどりつくという、躍動感のあふれる構成の花壇となっております。また、日の丸やオリンピックの五輪のマークを連想させるものも、花を用いてうまく配置されておりました。これらはいずれも花の苗を植え付けるときから仕上がりイメージして工夫されたものであり、花の種類を選び方、デザイン、カラーバランスともに素晴らしいものとなっております。

加えて、花の生育も申し分なく日頃の管理が十分に行き届いているほか、園児たちが楽しみながら水やりや花がら摘みをするなど、花をととても大切にしている様子も伺えました。

以上のような点で、幼児期の園児がふれあう花壇として総合的に高い評価が与えられました。

(審査委員長 名畑清信)

一般花壇部門 最優秀賞 砺波市 梅檀山花と緑の推進協議会



【審査講評】

審査の段階で、最優秀を選出するのに審査員による議論が大変時間がかかる程、上位4団体の出来は素晴らしく見ごたえのある立派な花壇になっていました。

そんな中で選ばれた、梅檀山花と緑の推進協議会の「井栗の森夢花壇」は、栽培管理、中でも、開花・生育状況は審査対象の中でもずば抜けて素晴らしい状況でした。

具体的な評価としては、その立地条件を最大限に活かし、一年草主体に植栽しつつも宿根草をうまく取り入れ、コンテナなどもうまく配置して全体としてバランスが素晴らしくなっています。また、何と言っても育苗ハウスのパイプを活用して、琉球朝顔のオーシャンブルーやひょうたん・へちまが育っており、特に今年は、蔓植物の棚下の空間を利用してプランターを配置することによって上下二段の花を観賞できるようになっており、今までに無いユニークな花壇になっています。花壇の設置場所は街から少し遠いところがありますが、多くの関係者の皆さんに是非一度見に行ってもらいたいと強く願います。

(審査委員長 西尾 正)

花の道部門 最優秀賞 富山市 八尾園ふれあい花壇



【審査講評】

例年上位に入賞されていますが、今年もキバナコスモス、ハツユキソウ、メランポジウムなどを主体にポリウム感と花色の配置が見事なS字カーブの花の道に仕上がっていました。

その背景として、施設の13人の園芸班を中心とした精神的な管理と共に保育所や警察署とも連携を図るなど、地域の触れ合いを大切に活動されていること。環境にやさしい取り組みとして、ケヤキの落葉を集めて自分達で米ぬかと配合し、冬季に切り返し、熟成を図るなど、手作りの腐葉土を用いた土づくりが実施されていること。また、多年生植物や一年生植物のこぼれ種をうまく活用して花の配置に生かし省力化が図られていることも、継続性の高い一因であると考えられます。また、隣接のふれあい花壇も花の道の導線が生かされて、足を止めてより近くで季節の花が楽しめるよう工夫が凝らされていました。

(審査委員長 松下眞一郎)



「20有余年継続している栃山花壇」

花と緑の銀行滑川支店 北加積地方銀行

頭取 **岩城 博志**

皆さんこんにちは。北加積地方銀行の頭取を仰せつかっております岩城と申します。

私達の地方銀行は、小生と校区町内から選出されています6名のグリーンキーパーで、栃山地内の花壇を管理しています。



写真1 栃山花壇全景

栃山花壇は、滑川市の中心部、北陸自動車道滑川インター近くにあり、面積は150㎡程度です。

弊花壇に私達は、毎年6月にマリーゴールド・ペゴニア・サルビア（本年は金魚草）などを、また11月にはパンジーをメインにおよそ1200ポットを植栽



写真2 春の花壇活動

し管理しています。

合わせて地域住民・学童・園児の緑化意識高揚のため、5月にサルビア・インパチエンスなどの花苗、11月にはパンジーの花苗・チューリップなどの秋植球根をお配りしております。これらが私達の主たる活動です。

小生は、花と緑のお世話をして5年余りで経験も浅いのですが、ご存知のとおり花壇の維持・管理には大変な労力と皆さんの協力が必要不可欠です。

耕運機による耕作、肥料撒きと整地、そして植栽ですが、グリーンキーパーと支店の皆さんで2時間程度で終わることになります。問題はこの後の水やり・花摘み・草むしりに大変な労力を費やしますので、皆で協力し合って維持・管理に努めているところであります。

終わりに、雑白な活動紹介となりましたが、お近くにお越しの折には、是非ご高配いただき、ご教示賜りますれば幸甚に存じます。



写真3 秋の花壇活動

〈情報コーナー〉

富山県花と緑の祭典2016「第44回花と緑の大会」を開催します。

- 1日 時 平成28年10月12日（水）13：30～16：00
2場 所 富山県民会館 富山市新総曲輪4番18号
3内 容

- (1)花と緑の功労者表彰
(2)富山県花と緑のコンクール入賞者表彰
(3)花と緑の講演会 演題 「私たちの活動と、これからの花のまちづくりへ」
講師 南大塚都電沿線協議会
会長 小山 健氏

(第25回全国花のまちづくりコンクール 団体部門 花のまちづくり大賞（国土交通大臣賞）)



平成28年度一般花壇部門 最優秀賞花壇

◎同時開催

・平成28年度花と緑のコンクール入賞作品・写真展示

☆なお、平成28年度富山県花と緑のコンクール入賞作品・写真展示を富山県中央植物園・サンライトホールにおいて、10月28日（金）～11月16日（水）まで開催いたします。多数のご来園をお待ちいたしております。

表紙写真：「中央通り線の花飾り」（入善町）

裏表紙写真：「タブノキの着果枝 8月上旬 富山市蓮町にて」…写真提供 長谷川 幹夫氏



「タブノキの着果枝 8月上旬 富山市蓮町にて」



花と緑の銀行だより 201号

発行日 平成28年9月

編集発行 公益財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上巒田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyonomori/>